

## 令和7年度 第1回 嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会 会議録

1 審議会等の名称 令和7年度 第1回嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会

2 開催日時 令和7年10月28日 火曜日 午後6時30分～

3 開催場所 碓井庁舎 3階 研修室1

4 公開又は非公開の別 公開

5 非公開の理由（会議を非公開とした場合のみ）

6 出席者

（1）委員

会 長 伊東新治

副会長 大山晴美

委 員 友松竜治委員、大里雄一郎委員、日野真吾委員、島崎洋子委員、坂田続穂委員  
井上 剛委員、高城将昭委員、稲富哲市委員

（欠席）石田英喜委員、大庭正二郎委員

（2）事務局

学校教育課参事 近藤暢威 学校教育課指導係長 大脇 猛

（欠席）学校教育課長 大淵 豊 学校教育課教務係 山本昌美

7 傍聴人数（会議を公開した場合のみ） 0人

8 議題及び協議の内容

【議題】

○学力向上の取組について（公開）

【協議の内容】

○学力向上の取組等について（公開）

学力向上の取組をさらに充実させるためにはどうあるべきか、本年度の学力向上の取組について説明し、協議した。

【主な説明内容】

《学校における学力向上の取組》

・組織的な授業改善を図ることができるよう、その改善の在り方について指導

（小学校・義務教育学校前期課程）

- ・組織的な単元テストの作成・実施について指導（中学校・義務教育学校後期課程）

### 《県の事業への積極的参加》

#### ○令和7・8・9年度 福岡県重点課題研究指定・委嘱事業

- ・福岡県の重点課題について、県教委の研究指定を受けた事業。主体的に学習を進める学びに向かう力の育成という課題の解決に向けた研究
- ・碓井義務教育学校が実施
- ・令和7年11月18日（火）第2回連絡協議会の実施  
（4年生社会科、7年生の英語科の授業公開）

#### ○令和7年度 AIを活用した英語授業モデルの構築事業

- ・「グローバル人材の育成及び県下中学校における生徒の英語力向上」を目指して、AIの活用による英語授業の実証を推進するという目的で行われる事業で、具体的には、モデル校の中学校2年生、義務教育学校の8年生を対象とし、AI教材を授業や家庭学習に導入し英語力を高めるためには、どのようなAI教材の活用の在り方が効果的かということについて研究していくもの
- ・嘉麻市中学校・義務教育学校5校がモデル校に指定（県内20のモデル校）
- ・令和7年11月27日（木）モデル校を代表して山田中学校にて授業公開

### 《嘉麻市土曜未来塾》

- ・5・6年生及び中学校・義務教育学校後期課程の全学年を対象
- ・学校毎の7会場にて実施
- ・学習内容としては、宿題を中心に一人一人に応じた課題を行う取組で、大学生を中心とした学習サポーターが、分からない課題に対し個別に指導
- ・毎週土曜日、3月まで合計約39回を予定

#### ○受講者の増加に向けて

- ・関係各課から入塾の声掛け
- ・前年度から各会場責任者より呼びかけ
- ・PR動画を作成し、すぐメールやtetoruを使って保護者に紹介
- ・年度初めにおける教育委員会による学校訪問を通して、学校の全職員に本事業の趣旨についての説明および子どもたちへの声掛けの依頼

→本年度の受講者数…158名（前年度より24名減）

※学校での声掛けを再度依頼していく

### 《嘉麻市放課後英語塾（「嘉麻市オンライン英語授業」より本年度改名）》

- ・昨年度より開始
- ・英検3、4、5級合格を目的に行う、外部業者への委託によるオンラインでの英語授業
- ・部活動が休みの木曜日の放課後実施

- ・市内中・義務教育学校をオンラインでつないだ一斉学習
- ・対象は中学校・義務教育学校後期課程の全学年を対象
- ・それぞれ目標とする級ごとに3グループに分け実施（グループは受講者本人の希望に基づき決定）
- ・AグループとBグループは夏休みに全3回からなる夏期講座を実施（会場：碓井義務教育学校）

※碓井義務教育学校まで来ることができない生徒は、学校から持ち帰っている一人一台端末の「カスタ」を使って、自宅と碓井義務教育学校をオンラインでつなぎ参加

- ・参加人数…91名（昨年度より48名増）

※欠席が多い生徒、また学習に意欲的でない生徒の参加について

### 【主な協議】

#### 《嘉麻市土曜未来塾について（実施方法）》

- 土曜未来塾を土曜だけではなく平日（1日だけでも）の放課後実施できないか。分からないものをそのままにしているため、学力が身に付かない。分からないものをその日のうちに分かるようにする必要があるのではないか。（委員）
- 平日開催が難しい理由として2つある。
  - 1つは、下校時刻をどうするか。小学校だと、下校時刻が3時～4時ぐらいに下校時刻が設定されている。（学校だと、部活動との兼ね合いをどうするか）
  - 2つは、学習サポーターをどうするか。学習サポーターを近隣の大学生から募集しているが、平日開催だと大学生の参加が難しい。（事務局）

#### 《嘉麻市土曜未来塾について（参加人数）》

- 参加人数が学校によって大きく異なるが、この差が生じる原因は何か。（委員）
- 特定の学校が、毎年参加人数が少ないのではなく、年度によって違う。学級の子どもたちの中で「参加しよう」という雰囲気があるかどうかで参加人数が変わるのではないかと。学校の中で積極的な声掛けを行い、「みんなで参加しよう」という雰囲気をつくっていただきたい。（事務局）
- 不登校対策のために始まった経緯もあり、始まった当初は、勉強が苦手な子のご家庭に連絡し、個別に担任から呼びかけていた。担任の負担にはなるが、学級で勉強が苦手な子の家庭に連絡するなどの工夫もいるのでは。（委員）
- 効果があったのは、どれだけ未来塾に行く価値を子どもに伝えることができるか。（例えば、「未来塾に行ったら土日の宿題を終わらせることができるよ」など）これはできるかどうか分からないが、学習サポーターの大学生は子どもたちにとって魅力があるものなので、帰りの会などで紹介し未来塾をアピールするなどできないか。（委員）
- 土曜未来塾を一度学校でやってみたらどうか。こんな人たちが教えてくれる。こんなことをしているということが分かれば、行きやすくなるのではないかと。（委員）
- 最初は勉強じゃなくてもいいので、「行ってみようかな」というきっかけをつくったらどうか（委員）

- 今、嘉麻市はコミュニティスクールを全ての学校に導入しようとしている。そのコミュニティスクールの位置付けとして、この土曜未来塾へのサポート体制を入れてもらうというのも一つの案ではないか。大学生に教えてもらうというのも価値があるが、地域の方にもサポーターとして協力しますという人もいる。そのような方の力を借りながら、コミュニティスクールの活動としてできないか、各学校において議題にしてもらうなどできるのではないか。(会長)
- 土曜未来塾とか放課後英語塾など知らないご家庭もあるので、保護者が見学できる日などがあつたらいいのではないか。(委員)
- 見学については、いつ来ていただいても構いません。ぜひ、見学に来てください。(事務局)
- 昨年度は、PR動画をお知らせしていた。(委員)
- 子どもがお知らせを保護者に渡さず、知らない保護者の方もいるのではないか。人が集まる場所で紹介することで、興味を持つ保護者もいるのではないか。(委員)
- PR動画を作成しており、学校に協力いただいて保護者に見せる場を設定してもらうなどできるのではないかと思う。検討したい。(事務局)

#### 《嘉麻市放課後英語塾について（英検受験）》

- 放課後英語塾において、英検受験についてアナウンスしたり、受講を希望する人が多いのであれば、団体で受験できるようにしたりしたらどうか。模擬試験でもいいので実施してみても。(委員)
- 嘉麻市主催で英検の団体受検ができないか、今、検討中。(事務局)

#### 《嘉麻市放課後英語塾について（欠席が多い子への対応）》

- 参加人数は増えたところだが、増えた結果、課題として挙がっているのが、欠席が多かったり参加しているが意欲的でなかったりする生徒（難しかったため）をどうするかという課題が出てきている。意見をいただきたい。(事務局)
- 最初の募集案内に「出席率を何%から下回った場合には、違う子に譲る」とか記入することはできないか。(委員)
- 記入することは可能。しかし、受講した時点で教科書を配付しているので、違う子に受講する権利を譲るということとはできない。解決策として、教科書を嘉麻市教育委員会所有として貸し出す形をとり、それぞれが用意したノートに記述させていくということが考えられるが、そのような形をとってよいか業者に相談する必要がある。(業者とは100名という上限で契約を結んでおり、教科書を嘉麻市所有としてしまうと場合によって100名以上の生徒が受講することになる可能性がある)(事務局)
- 自分でやめるということはないか。(委員)
- 現在、やめたいという希望があれば、教頭先生から保護者に連絡していただき、このことを(100枠しかないうちの1枠使っているということ)説明していただき、その上で再度判断していただいている。(事務局)
- 途中でやめる場合は負担金などを支払ってもらうようにできないか。(委員)
- 最初の募集要項に、「きちんと参加する人に限ります」など、このことを触れておこうかと

考えているが、負担金までは考えていない。(事務局)

- ひとつの考え方として、「ご都合でやめられる場合は…」という条件をつけることもありではないか。そうすれば、新たなテキストも購入して頑張りたい子に渡せる。お金のことなので事務局としては取り扱いが難しいところがあるが。(会長)

#### 《嘉麻市放課後英語塾について（夏期講座の周知）》

- 放課後英語塾の夏期講習に申し込んでいたが、塾の夏期講習とすべて重なって参加できなかったのもので、早めに周知してほしい。(委員)
- 来年度は、早めに周知できるようにしたい。ただ、放課後英語塾の授業については、全て録画しており、カスタを使って後から何度でも見ることが可能なので、参加できなかった授業については、ぜひ録画を見ながら学習させてほしい。

#### 《家庭学習について》

- 宿題をするのが当たり前という習慣がついているのか。小学校の低学年から中学年において習慣づけるのが大切なのではないか。(委員)
- 提出率は80～90%ある。しかし、嘉麻市が進めている学習時間の達成率になると50%を切ってくる。宿題の出し方が学力の中位の子から苦手な子に合わせるため、学力が高い子は（自学を含め）すぐ終わってしまう。うちの学校の課題は、学習時間をどのようにして確保させていくか。宿題の出し方を考えていく必要がある。(委員)
- 1年生から4年生に限れば毎日出ているし、低学年だと目標となる家庭学習時間が短いのでクリアできている。うちの学校の考えは、(宿題は家庭で学習する習慣をつけるためのもので大切な力ではあるが)宿題で学力を上げるのではなく授業で付ける。单元テストの結果をもとに、ここ身に付けないといけないという内容については、学校の空いた時間で、いろいろな先生方により指導している。(委員)
- 放課後10分でもいいので、低学年から学校で集中して宿題をする時間を取っていたら、そのうち自分たちでするようにならないか。習慣づけるのが難しいご家庭もあると思う。(委員)
- うちの学校では家庭学習強化習慣を設定している。中間考査や期末考査の時期になると生徒も勉強するから、義務教育学校になってからは、後期課程の中間考査や期末考査の時期に合わせて前期課程の家庭学習強化習慣を設定することで、家でみんな勉強しているという状態が作れないかやってみている。(委員)

#### 《その他の取組》

- 歌などを活用して、知識の習得を図ってはどうか。(委員)
- 歌など取り入れたりしながら、いろいろ工夫した取り組みが行われている。後期課程の生徒から前期課程の児童に教えたりする活動も行っている。また、現在求められている学力が、単に知識を覚えるものから、覚えたものを活用して考える力へと変わってきている。そのような力を身に付けさせるためにはどうしたらよいかということで各学校取り組んでいる。(委員)

→どこの学校においてもいろいろな学校の取組を行っている。学力向上検証委員会というものを年3回もって、いろいろな学校の良い取組を交流する機会ももっている。(会長)

## 9 配付資料

レジュメ

スライド資料（一部）